

「第29期同期会でのご縁（その2）」

29期 仲田 元昭

第29期第12回同期会（平成23年11月開催）のご縁で、60年ぶりに小学校のクラスメートと再会できたことは、2月のメルマガで寄稿しているが、今回は第17回「卒業60年並びに傘寿祝い」最後となる同期会（昨年 令和4年11月東京ガーデンパレスで開催）のご縁で、再会を果たせた内容をご紹介したい。

最後の同期会とのことで他のクラスの方ともお話しが出来ればと思い、開会の40分程前に会場に入ったが、すでに30名程が受付周辺や会場内に来ておられた。同期生各位も私と同様のお考えの方が多かったのであろう。

母校を卒業し私と同じ会社に就職した3人全員が、開会前に会場入りしていた。4組の長尾将男君（旧姓三谷）とは、最後の同期会とのことで出席され20年振りの再会、5組の島村正博君とは3年振りの再会である。3人以上同じ製造企業に就職し全員最後の同期会に揃って出席したのは、我々のみであろう。就職した時の会社の売上高は1,511億円、現在は、4.5兆円（30倍）とグローバル企業に成長、好・不況の荒波を乗り越え我々も会社と共に仕事と共に成長し、島村君は世界を相手に輸出部門で長尾君は宣伝部門で活躍された。

さて再会での話だが、開会前に早速3人立ち話で近況を報告し合った。誰からともなく3人で一度ゆっくり会いましょうとの話となり、船橋で街歩き後に昼食懇親会をしようと即決まり、時期は来春頃とした。

今春に入り日程調整の結果、令和5年6月20日 JR 船橋駅改札出口集合と決まった。街歩きのコースは、大河ドラマ「どうする家康」にちなんで、「徳川将軍家と船橋」をテーマに4月に森平君他1組の有志4人をご案内したコースと同じ、今回は特に江戸との共通視点の比較をしながらご案内した。

- ① 江戸と船橋は地形的によく似ている事（武蔵野台地の端と下総台地の端）
- ② 江戸城は西からの防御として内堀に半蔵門、外堀に四谷見附と二重の守り
- ③ 家康は東からの防御の拠点として、里見氏への睨みを利かせる場所として船橋を重視したともいわれている事、等々も交えご案内した。

街歩きを終え、場所を変えての楽しい懇親会に入った。健康寿命維持の取り組み（島村君：山登りの会、長尾君：太極拳の会で各位活躍）や島村君からは地元八王子には、国史跡の八王子城跡があること、家康が西からの防御として八王子千人同心を置いたこと等々船橋との共通視点での歴史談議にも花が咲いた。

我々も傘寿を過ぎ残された人生を健康に楽しく過ごすとうと、街歩きを通じ交流を深め互いの健康寿命維持に取り組もうと、次回2回目は涼しくなる秋に家康の側近で成瀬正成を初代城主（後に犬山城初代城主）とした小栗原城跡や成瀬家の菩提寺等西船橋周辺をご案内することにした。

是非シニア世代の同窓生におかれては、同窓会、同期会を通じ新たな交流の輪が広がることを願っている。（寄稿：令和5年7月1日）



島村君持参のパンフレット